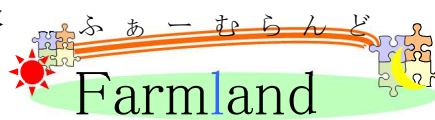




鳥取県農地・水・環境保全協議会

会報



第81号

令和7年1月

中国四国農政局長表彰 最優秀賞受賞について

令和6年度中国四国農政局長表彰において、「下町水土里会」（八頭町）は、本県では一昨年度の「出上農地・水保全活動組織」（琴浦町）、昨年度の「会下部落地域資源・環境保全プロジェクト」（鳥取市気高町）に続いて、3年連続となる最優秀賞を受賞されました。

○組織の概要 【下町水土里会】

本組織は、旧船岡町の八東川とその支流の大江川の合流地点辺りに位置しており、農業生産法人による農地集積化や小麦栽培による耕地利用率向上などが進められています。

平成19年度に、農業者や農業生産法人だけでなく地域の多様な団体からの参画により本組織を立ち上げ、地域農業の着実な発展とともに、地域で支え合う活動を通して集落の絆を深め、次世代に繋ぐべく人づくり・後継者の育成を図りながら、地域の持続性を高めています。



○主な活動内容

《外部団体と連携した環境保全活動》

地域おこし協力隊員をアドバイザーとして、（一社）鳥取県地域教育推進局環境部 MIZUNOBA の大学生とともに、ため池の水落しによる特定外来生物の駆除を実施しました。また、本組織の認定農用地は、環境省「自然共生サイト」エリアの一部が含まれ、環境保全型農業を実施するなど自然生態系を意識した活動により、コウノトリが頻繁に飛来するようになりました。



天満山、八頭広域カントリーエレベーターを望む、仲夏の下町水

《多様な組織が連携して行う農村の持続力向上の取組》

地域の女性会が中心となり、休耕田で枝豆を栽培し、収穫した枝豆を活用して高齢者施設と交流や障がい児童施設の子どもたちとの芋ほり体験を行っています。また、農業生産法人による地元保育園や地域外の幼稚園をはじめ消費者との稲刈り体験交流も行われ、「関係人口・交流人口」の増加につながっています。施設の長寿命化については、構成員の自警団が中心となり、できるだけ直営施工による活動を実施しています。



地域協力隊員・大学生の協力によるため池の環境保全活動



コウノトリが10羽も飛来!



消費者との稲刈り体験交流

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウムに参加して

一般国民が常日頃、身近に感じやすい防災・減災機能「田んぼダム」の取組事例紹介、農業遺産や地域資源を活用した広報活動など、地域の活性化について知見を深めるプログラムの全国シンポジウムが、11月27日・28日の二日間にわたって東京都千代田区「砂防会館別館」に於いて、379名（Web参加者631名）の参加で開催されました。（鳥取県からの現地参加は7名、Web参加者21名）

初日（第1部）、基調講演では、「田んぼダムのすゝめ」と題して、椿一雅氏（新潟県）から、『大規模な施設整備は不要なので、日本の農家が一体となって取組面積を増やそう！ 農家も行政もリラックスして！』とのアドバイスがあり、農作業に向かう気持ちがグッと楽になりました。

続いて講演①では、「倉敷市における「田んぼダム」の取組について」と題して、高橋萌氏（岡山県）から、平成30年7月豪雨に被災した上で、治水対策や田んぼダムの取組みについて熱いお話がありました。

講演②では、「～世界かんがい施設遺産の広報活動と立梅用水が進める農村RMO～」と題して、山本有紀氏（三重県）から、

『自分の住んでいる地域の魅力は人です！』と、地域の暮らしを守る活動が生き活きと語られました。スマート化や子どもたちとの関わりが、大変参考になりました。

初日終了後の情報交換会（123名参加、うち鳥取県からは3名）では、『今年食糧・農業・農村基本法改正に伴い、多面的機能支払制度が強化された』と言うあいさつの後、全国の方々と情報を受発信し、交流を深めました。

次の日（第2部）、講演①では「私達は「田んぼダム」を見つめて何を語っていくべきか？～岩見沢市広域協定を通じて変化する岩見沢style～」という哲学っぽい演題で、斉藤氏・高橋氏から北海道の治水の特徴について紹介があり、「潤いを目指す」話が印象に残りました。

講演②では、「広域組織ひとつでたすけあう地域のちから・つながる未来」と題して、久保田修氏（熊本県）からの報告があり、地震と豪雨の被害の中で、自助・共助の活動が復興に大きく寄与しているとの事でした。また、事務負担軽減に向けた広域化について、我々の目指すべき組織の形だなど、勉強になりました。

最後に、「田んぼダム活動を推進するために～普及・拡大に向けて取り組むべき課題～」について、パネルディスカッションがあり、田んぼダムの取組を始めたきっかけ、発生した課題、その対応策、取組によるメリット、合意形成を得るために工夫した点、活動の認知度向上や理解の促進を図る実例やヒントをもらいました。

改めて、今回のシンポジウムについて、「田んぼダム」は農家にとっては簡単な取組で、街の人にも効果の必要性が分かりやすく、連携した持続的な地域づくりであり、また、農業遺産や地域資源を活用した地域活性化について知識を高めることができました。特に、情報交換会で、全国に相談相手が増えたことが個人的には最大の収穫になりました。

今後、多面的機能支払の活動を、さらに楽しく、リラックスして頑張ろうと思うきっかけになりました。余談ですが、近くの国会議事堂や農水省や全土連の見学も勉強になりました。（記 会下部落地域資源・環境保全プロジェクト 代表 谷尾 幹夫）



パネルディスカッション



筆者

多面に関するご質問・お尋ね等は各市町村担当者又は下記までお願いします。

	問 合 先	電話番号
東 部	鳥取県農地・水保全課	0857-26-7334
	鳥取県東部農林事務所地域整備課	0857-20-3570
	水土里ネットとっとり（協議会事務局）	0857-38-9500
中 部	鳥取県中部総合事務所農林局地域整備課	0858-23-3171
	水土里ネットとっとり倉吉事務所	0858-47-0055
西 部	鳥取県西部総合事務所農林局地域整備課	0859-31-9665
	水土里ネットとっとり米子事務所	0859-32-9710



高めよう

地域協働の力！